

日本語中上級クラスにおける作文を活用した 読解活動の実践と今後の展望

稲田 栄一(関西学院大学 国際学部)

2023年11月26日(日) 於:立命館大学衣笠キャンパス創思館

「教育から学びへ:これまでの外国語教育とこれから —立命館大学プロジェクト発信型英語プログラムと立命館アジア太平洋大学・日本語プログラムの実践から—」



発表の流れ

1. 立命館アジア太平洋大学が目指す教育と本日の発表内容の関係
2. 読解活動に至った背景
3. 活動内容
4. 結果・考察
5. 読解活動のまとめ
6. 今後の展望(生成AIの活用)



自己紹介

稲田 栄一（関西学院大学国際学部）

<日本語教育歴>

- 大学・専門学校等への進学を目指す留学生への日本語予備教育（日本国内の日本語学校、専門学校）
- EPAに基づく介護福祉士/看護師候補者への日本語研修（フィリピン人・インドネシア人候補者）
- 大学での正規科目としての日本語教育
 - ・2018年4月～2023年3月 立命館アジア太平洋大学 言語教育センター
 - ・2023年4月～ 現在 関西学院大学 国際学部

2018年 立命館大学大学院言語教育情報研究科修士課程修了

1. 立命館アジア太平洋大学が目指す教育と本日の発表内容の関係

□立命館アジア太平洋大学(Ritsumeikan Asia Pacific University :APU)

- ・大分県別府市 2000年設立
- ・3学部(アジア太平洋学部、国際経営学部、サステナビリティ観光学部)
- ・学生数、約5500名(内40%が国際学生(88の国・地域))



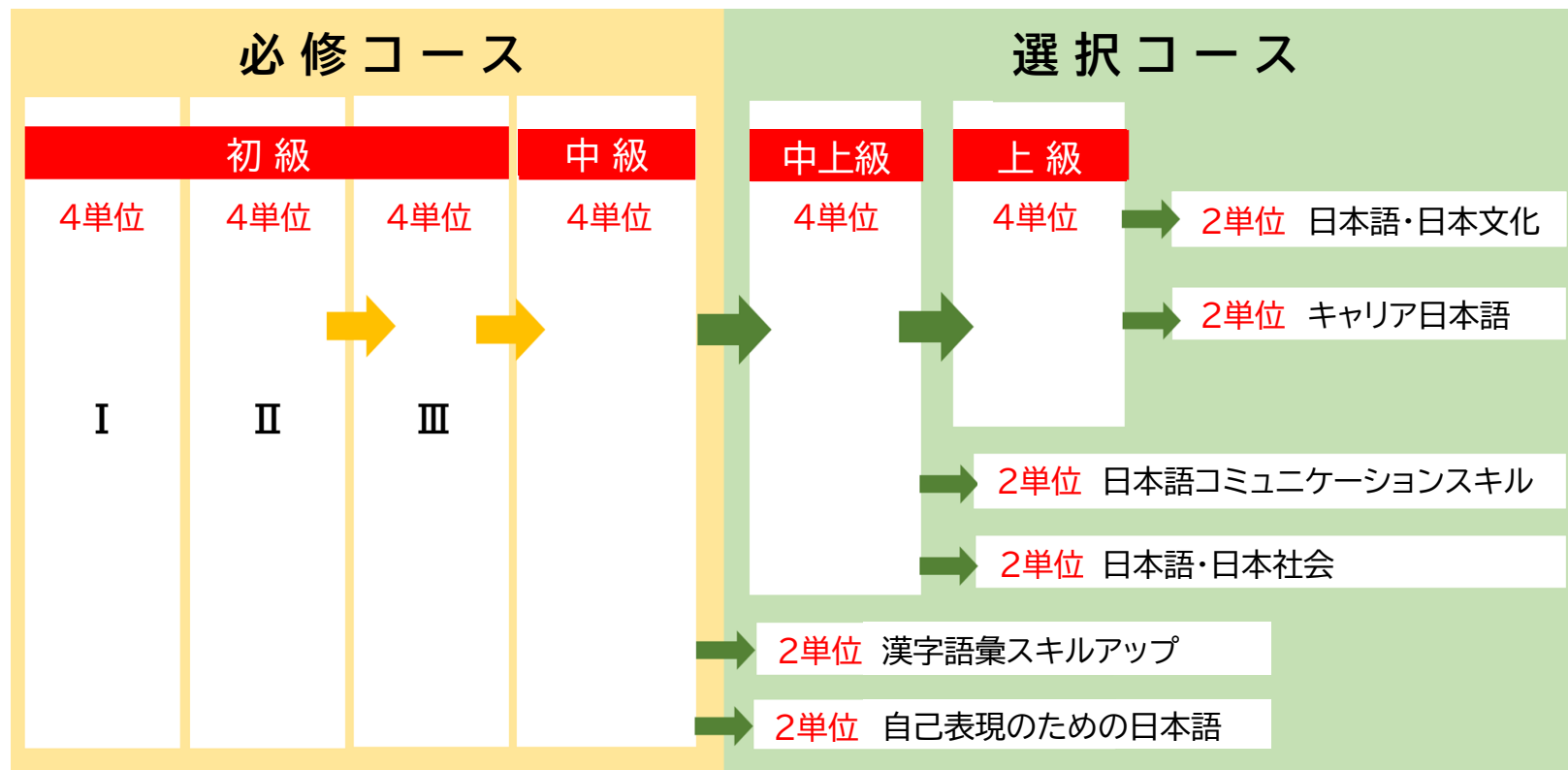


1. 立命館アジア太平洋大学が目指す教育と本日の発表内容の関係

□APUの日本語教育

⇒言語教育センター(The APU Center for Language Education:CLE)が担当

- ・日本語ゼロレベルから上級相当までのコースを提供
- ・ゼロレベルスタートは約55%、日本語中級まで必修
- ・毎学期1200名程度の受講生、日本語教員は現在35名が在籍



※シラバスにミッションに関する目標を記載

1. 立命館アジア太平洋大学が目指す教育と本日の発表内容の関係

<APUのミッションとCLEの言語教育>

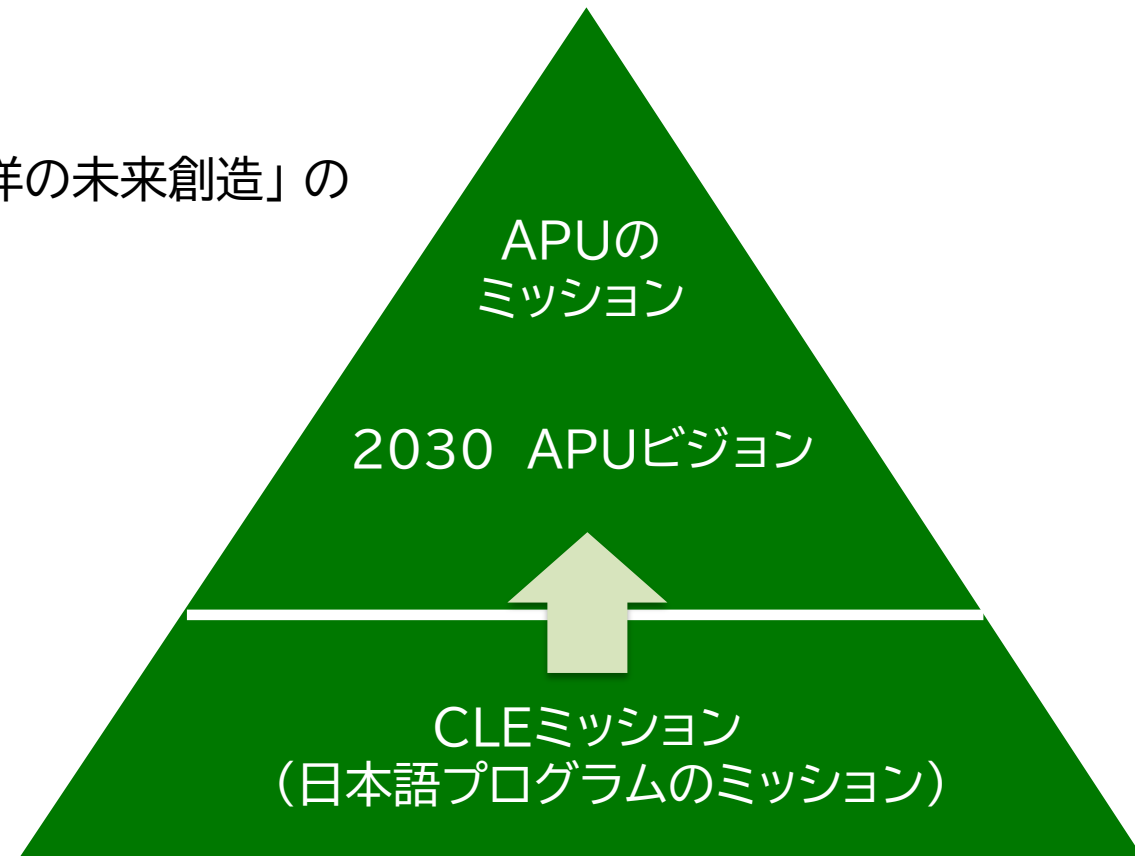
□APUのミッション

「自由・平和・ヒューマニティ」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」の実現に貢献できる世界市民の育成

□2030 APUビジョン

APUで学んだ人達が世界を変える
(立命館アジア太平洋大学HPより)

□言語教育センター(CLE)のミッション (日本語プログラムのミッション)



1. 立命館アジア太平洋大学が目指す教育と本日の発表内容の関係

□言語教育センター(The APU Center for Language Education:CLE)

⇒「世界を変える人材」を育成するための言語教育を目指し、以下のミッションを設定

<CLEミッション>

日常生活から専門分野の学びまで、様々な状況でのコミュニケーションに必要な①言語運用力、他者との効果的な協働に必要な②異文化間能力、そして③自律学習能力を有する学習者を育成する

(立命館アジア太平洋大学HPより)

□本日ご紹介する活動・・・「日本語中上級クラスにおける作文を活用した読解活動」

日本語の授業内に学生が書いた作文を読解教材として用い、学生同士でお互いの作文を作文を読み進めていくというもの(稲田,2023)

<活動のねらい>

授業内で行った作文記述指導や読解を読み進めること(①言語運用力)、他者の作文からの気づきを得ること(②異文化間能力)、その気づきによる自身の省察(③自律学習能力)における学びを得る。



2. 読解活動に至った背景

- 初級から中級、中上級クラスへとレベルが上がるにつれて、長文読解を諦める学生
- 「興味を抱き、内容を理解しながら読む」という読解の本質を学生が理解しないまま、学習のための読解指導が進められていたのではないかという発表者の反省
- 学生が委縮せずに読解を楽しむための仕掛けとして、本活動を実施
 - ⇒ 同じ日本語レベルの学生が書いた作文であれば、文法語彙的・内容的にも適した教材として活用できるのではないかと & CLEミッションを実現するための一つの方法にもなる



3. 活動内容

<対象クラス・学生>

- 発表者が2022年春学期に担当した立命館アジア太平洋大学の選択科目「日本語中上級」の受講生15名（出身国はインドネシア、ベトナム、中国など7か国）
- 週4回で全57回の授業が行われた中で、本活動は3回の授業時間内に実施（2022年5月24,26,27日）



3. 活動内容

<指導・活動の流れ>…事前の準備

1. APUの中上級コース内共通で行った作文指導に基づき、学生が作文を書く
テーマ:「私が日本の大学に入った一番の理由」
2. T: 全員の作文のチェック&フィードバック ⇒ S: リライトし再提出
3. T: リライト作文を再チェック(&再々チェック) ⇒ 作文完成
4. S: 完成した作文(=読み物)をLMS(manaba)のクラス内掲示板に投稿
⇒ クラス全体で共有



3. 活動内容

<指導・活動の流れ>・・・読解活動の実施

5. 「活動1日目(クラスメートの作文を読む)」

T: 活動の目的やルールを説明

⇒ S: LMSにアクセスしクラスメートの作文を次々に読んでいく

6. 「活動2日目(興味を持った作文の要約、感想等を書く)」

S: 読み終わっていない読解を読む

⇒ S: 読み終わったら、興味を持った作文を選び、その作文を選んだ理由と感想、100～200字程度の要約、書き手へのコメント等を記載したレポートを作成

7. 「多読活動3日目(話し合い、振り返り)」

S: 3-4名のグループになり、選んだ作文について、その理由や感想を話し合う



3. 活動内容

<指導・活動の流れ>・・・活動実施後の課題(宿題)

8.S: 読解活動レポートおよび振り返りシート(自由記述式)を提出する

9.T: 読解活動レポートと振り返りシートをチェックし、他の学生(読者)からのコメントを添えて返却

4. 結果・考察

□活動後に提出された「I. 読解活動レポート」および「II. 振り返りシート」の分析


読解活動レポート





- ①あなたが面白いと思った作文を2つ選びなさい。
- ②どうしてその2つの作文がいいと思ったか、理由を書きなさい。
- ③クラスメートが書いた「私が日本の大学に入った一番の理由」の作文を1つ選んで、要約を書きなさい。(100～200字)
- ④作文を読んだ感想を書きなさい。
- ⑤作文に書いてあったクラスメートの目標を達成するための具体的なアドバイスを書きなさい。


4. 結果・考察


<I. 読解活動レポートの記述から>

 S1 Aさんの作文を読んで両親についてもう一度考えるようになり、これまで両親からもらったことに感謝するようになった。一人暮らしが良い時もあるが、Aさんとは反対に私は両親を離れて一人暮らしが必ずしも幸せではない。Aさんもぜひ両親とまた仲良くなしてほしい。

 S2 Bさんはヨーロッパにも留学したので、異文化理解の大切さが良く理解できているのに、さらに日本でも勉強したいという向上心があって、すごいと思った。Bさんの作文を読んで、国際的な視野を持つことが重要だと気付いた。

 S3 Cさんが神様や妖怪があることを信じるのは無邪気と思う。私は、小さいときから、神や妖怪やポケモンなどの存在を信じられない。だから、Cさんの作文を読んで、面白いと思うだけでなく、びっくりする。そして、Cさんの日本の大学に入った理由に共感する。

 S4 Dさんの作文を読んだちょっと悲しいと感じる。なぜなら、学校にいじめられるのが大変だったでしょう。けれども、Dさんの日本語を必死に勉強するのは立派だと思う。私も卒業する前までに多くの経験を積んで努力をし、日本語が上手になりたい。



 クラスメートの作文(読み物)から、**内省(S1)、気づき(S2)、共感(S3)、今後のあり方を思慮する(S4)**などの効果がある



4. 結果・考察

< II. 振り返りシート(自由記述式)の記述から >

『読解活動の良かった点』

 皆の考えや文化について読んで、非常に面白かった。それに内容は私たちのレベル
 S5 なので、具体的に理解できた。

 クラスメートの作文を読んだことは本当に面白かった。色々な内容で全然知らなかったことと、たくさんの
 S6 新しい言葉も勉強できるようになった。

 みんなの作文を読むと、面白いアイデアや、より良い作文構成があることがわかった。
 S7

「面白く(S5,6,7)、レベルに適した(S5)」読み物に触れることで、読解への取り組みが意欲的になる
読解活動を通じて、新たな表現や作文構成における学びを実感している(S6, 7)

4. 結果・考察

< II. 振り返りシート(自由記述式)の記述から >

『読解活動の良かった点』

😊 (S8) 文の話題や書き方など、一人で考えの限界がある。ほかの人の作文を見ると、考え方や書き方、またはストーリーを述べる方式が学べると思う。

😊 (S9) 読解活動の後で、もっといい作文を書きたい、みんなにいい作文を見せたい、作文のモチベーションがあ
がった。

『アイデア、リクエスト』

😊 (S10) 学生達の中で、先生がモデル作文を選んで欲しい。自分の作文を一番良かった作文と比較できるからだ。そうすると、良い点や悪い点を理解し、改善できる。

作文における動機づけという面でも効果がある(S8, 9, 10)

4. 結果・考察

< II. 振り返りシート(自由記述式)の記述から >

『活動における困難』



言葉と漢字が難しかった。



時々わからない漢字や背景情報があった。



私は時々その意見を分らなかった。私の読解力が悪いかもしれないが、他の人の意見は明確ではなかった。

こうした困難を授業の中で取り上げ、「どうすれば読み進めることができるか？ (S11,12)」、「どうすれば相手に伝わる作文になるか(S13)」を学生とともに考えていくことが必要

5. 読解活動のまとめ

- クラスメートの作文を読み物にすることで読解に関する学びが得られるだけでなく、学生の内省を促進する効果や、作文の動機づけ効果がある
 - ⇒ APUのCLEミッション(①言語運用力・②異文化間能力・③自律学習能力の向上)を達成するための一助になるのではないか

※1度のみでの活動で読解能力が飛躍的に伸びるわけではないが、活動をきっかけに学習者に読解(や作文)への取り組み、考え方に変化を促すことは期待できる



- 活動の効果(読解面、作文面、内省面など)をより高く得るためには、単独の活動として捉えるのではなく、コース内に行われる複数回の作文指導や使用テキスト内の読解内容ともうまく連動させる必要がある

6. 今後の展望(生成AIの活用)

□生成AIで可能なこと

- ・自身が書いた作文をより良い「読み物」としてブラッシュアップする

⇒学生自身が書いた表現と、生成AIから提示された表現の違いを考える(何が違うか?なぜ自身の表現が不十分か?などを考えるきっかけづくりになる)

(1)大学に2年生になった私は、(2)先輩から未来のことを耳にしながら、そろそろ就職のことを考える時になったと思った。(3)韓国語、英語、日本語が話せる私は、(4)この能力を使いながら、自分の趣味と繋げる仕事を願っていた。(5)その結果、韓国野球器具に就職して、国際業務をしていくことが似合うと思った。(6)高校の時から続いていた俺の夢が、今まで変わっていないのだ。(7)韓国、カナダ、日本の学校を通いながらトライリンガルになった私は、(8)その生活がなかなか大変だったため、(9)どうしてもこの能力を使って未来のキャリアを作っていくことが優先に思っていた私は、(10)そして、やはり自分が好きなことを優先にしたい私は、(11)自分がどういう趣味があるのかを考えてみた。(12)悩みの間、野球に大きい関心を持っていた私を見つけ、いつか野球に関してのことをしてみたいと思った。(13)そしてある日、いつものようにインスタグラムをしていた私は、韓国野球器具の採用広告を見て、(14)そのキャリアにハマってしまった。

今後、韓国野球器具で国際業務をしながら、自分のキャリアから大きな達成感を感じたい。

(1)大学で2年生になった私は、(2)先輩から将来のことを聞きながら、そろそろ就職を考える時期になったと感じた。(3)韓国語、英語、日本語が話せる私としては、(4)この能力を生かしながら、自分の趣味と結び付けられる仕事を望んでいた。(5)その結果、韓国野球器具に就職し、国際業務を担当することが適していると考えた。(6)高校時代から続いていた俺の夢は、今まで変わっていないのだ。

(7)韓国、カナダ、日本の学校を通ってトライリンガルになった私は、(8)その生活がなかなか大変だったため、(9)どうしてもこの能力を活かして将来のキャリアを築きたい。(10)そして、自分が好きなことを優先したかった私は、(11)自分がどういう趣味があるのかを考えてみた。(12)悩んでいる間、私は野球に大きい関心を持っていることに気づいて、いつか野球に関してのことをしてみたいと思った。(13)そして、ある日、いつものようにインスタグラムをしていた私が、韓国野球器具の採用広告を見て、(14)そのキャリアに魅了されてしまった。

(15)今後、韓国野球器具で国際業務をしながら、自分のキャリアから大きな達成感を感じたい。国際交流が少ないスポーツである野球を国際化させ、野球歴史に寄与した人として覚えられたい。

誤用についてのフィードバックや、作文の内容に関する問いかけが可能

フィードバックをもとに作文(読み物)をブラッシュアップする

6. 今後の展望(生成AIの活用)

□生成AIで可能なこと

- ・自身が書いた作文をより良い「読み物」としてブラッシュアップする

⇒学生自身が書いた表現と、生成AIから提示された表現の違いを考える(何が違うか?なぜ自身の表現が不十分か?などを考えるきっかけづくりになる)

□作文がブラッシュアップできれば、今後学生が書いた自由作文、物語なども共有可能か?

- ・生成AIのフィードバックをもとに、学生が作文や物語を自由に書き、クラス内BBSなどで共有する

⇒教師の手を離れて、学生が自発的に「書きたい」「読みたい」と思えるようになれば、読解活動を始めるといった根本的課題「学生が読解を諦めてしまうこと」を解決する突破口になる

『①言語運用力、②異文化間能力、③自律学習能力』の育成につながる指導となる

参考文献

- 青木直子・中田賀之(2011)「学習者オートノミー」『学習者オートノミー: 日本語教育と外国語教育の未来のために(青木直子, 中田賀之編)』ひつじ書房, 1-22.
- 稲田栄一(2023)「日本語中上級クラスにおける作文を活用した多読活動の実践」『日本語教育方法研究会誌』29(2). 60-61
- 川那部和恵(2006)「異文化理解教育における実践的アプローチの可能性」『教育実践総合センター研究紀要』15, 53-60
- 寺嶋弘道・稲田栄一・板井芳江・隈井正三(2023)「ChatGPTによる作文のフィードバックとその活用の試み」『日本語教育方法研究会誌』30(1), 68-69
- 中田賀之(2015)「学習者のオートノミーとは何か」『自分で学んでいける生徒を育てる: 学習者オートノミーへの挑戦(中田賀之編)』ひつじ書房, 17-54
- 二宮理佳(2013)「多読授業が初級学習者の内発的動機づけに及ぼす影響」『一橋大学国際教育センター紀要』4, 15-29
- 立命館アジア太平洋大学ホームページ「APUについて/APU2030ビジョンとチャレンジ・デザイン」 <https://www.apu.ac.jp/home/about/content7/> (閲覧日: 2023年11月1日)
- 立命館アジア太平洋大学ホームページ「APUの言語教育について」 https://www.apu.ac.jp/home/study/language_education (閲覧日: 2023年11月1日)
- Ryan, R.M. & Deci, E.L. (2000) Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development and well-being. *American Psychologist*. 55, 68-78